




令和4年5月26日発行
 第11号
 岡山市教育委員会
 生涯学習課公民館振興室
 (岡山市北区幸町 10-16,
 234-6015)
 公民館振興室 HP



新たな視野と方法で防災教育を推進

3・11を忘れない ～瀬戸公民館～

瀬戸公民館では、令和4年3月11日に環太平洋大学の高橋純一先生をお招きし、「3・11を忘れない 東日本大震災当時の学校現場では！」を開催しました。

高橋先生は、東日本大震災で被災した仙台市立高砂中学校に震災派遣教諭として赴任された経験をお持ちで、ご講演では、その際のご経験や被災地の状況を交え、子どもたちの目から見た震災や、防災意識の大切さについてお話をいただきました。



罹災し、制服や教科書を無くした生徒たちが数多くいる状況の中、高橋先生はご自身に何ができるか、自問自答を繰り返されたそうです。そして「充実した中学校生活を生徒と共に過ごせるようにしたい」と、生徒と一緒に仮設住宅の慰問活動を行うなど、「同じ目線で、寄り添いながら」をモットーに取り組みされた経験を、当時の様子がわかる写真を交えて紹介されました。

先生のお話しに、受講者からは「もう11年ではなく、まだ11年だと思った」「家に帰って、地震の備えを今一度確かめたい」という感想が寄せられました。



また、今回の講座は、初めてオンラインでの動画配信を同時に行いました。当日は、動画を見られた受講者からチャットという機能を使って感想を受け付けて、それを講師に伝え、さらにお話しをいただくなど、会場に来られない方にも、受講してもらうことができました。

瀬戸公民館の一部の講座の様子や地域行事は、Youtubeチャンネルで見ることができます。右記のQRコードからぜひご覧ください。



公民館は「かけがえのない学びの場」

新型コロナウイルス感染急拡大で保健所業務逼迫のために、市の業務継続計画（BCP）に基づいて1月21日から公民館は臨時休館としていましたが、3月7日より通常通り開館とし、主催事業（主催講座・クラブ講座）を再開しています。

各公民館では、「休館中、公民館での学びがかけがえのないことに気づいた」「家にいると気持ちが沈

みがちだった」と、講座に参加される方々の笑顔や、仲間との再会を喜ぶ姿が見られました。

活動に際しては引き続き、感染防止対策の徹底をよろしくお願ひします。



3か月ぶりに実施された建部町公民館のポトルフラワークラブ (3月28日)

※「れんめんめん」の由来…「連綿」と途切れることなく、「面」のように広がりを持ちながら、人々の営みが将来へとつながり未来を拓いていくことができるように、という願いを込めています。

※QRコードの商標はデンソーウェーブの登録商標です。

公民館の実践紹介⑳ 津高公民館

子どもたちの防災意識を育む ～「防災講座」の出前講座をとおして～

はじめに

津高公民館は香和中学校区にあり、この中学校区には馬屋上小学校・野谷小学校・横井小学校の3つの小学校があります。各小学校区によって自然環境が違い、平成30年の西日本豪雨災害でも地区によって被害の度合いが異なりました。

津高公民館では職員が「防災士」の資格を持っていることもあり、公民館はもとより、地域にも出向いて「防災講座」を行っています。令和3年度は中学校と小学校から児童生徒に対する防災講座の講師の依頼があり、講座を行いました。対象者ごとに適切な講座内容に変更し、一人でも多くの子どもたちに防災意識を高めてもらえるように取り組みました。

学校での講座の様子

10月は香和中学校の1年生を対象に、国土交通省 中国地方整備局 岡山河川事務所が作成した「逃げキッド」という、

大規模な台風などから自分の身を守るために、台風が近づく前に取るべき行動をあらかじめ作るための教材を用いました。生徒たちは、自分自身がとる防災行動を時系列的に整理した行動計画表「マイタイムライン」を作成し、各自が自分のとるべき行動を確認しました。

また、馬屋上小学校の全校児童を対象に、地震が起きたときにどう行動するか、自分たちの地域でどんな危険が予想されるか、について一緒に考えました。

11月には野谷小学校の4年生と「住んでいる地域で考えられる災害」、「危険な場所」、「避難場所」



香和中学校での講座の様子



野谷小学校での講座の様子

について写真を見ながら学習し、自分に何ができるかをみんなで真剣に考えました。

子どもたちの感想

- ・今日作ったマイタイムラインを元に家に帰って、家族と話し合おうと思う。(香和中学校1年)
- ・何かあってから考えるのではなく、事前に決めておき、それをもとに行動することが大切。(香和中学校1年)
- ・災害が起きたとき危険な場所、とるべき行動などがよくわかりました。(野谷小学校4年)
- ・土石流のえいぞうがとてはくりよくがあって、土石流はどんな物といっしょに流れてくるのか、きけんなところがよくわかりました。(野谷小学校4年)
- ・倒れてくるもの、落ちてくるもの、動いているものに気を付けたいです。(馬屋上小学校)

今後に向けて

今回の小中学校で行った防災講座では、西日本豪雨の際の被害状況などをふまえて、地域内の危険な場所や、避難場所についても説明しました。

子どもたちの感想からも、自分たちの住んでいるところでどのような場所が危険なのか、どこに避難すればよいのかを知ることができたことが伺えます。子どもたちが学んだことを家で話すことで、「事前にどんな備えをするか」「いざというときにどう行動するか」について家族と確認したり話し合うことにもつながります。

公民館では、防災・減災につながる地域の情報を今後も収集し、学校と連携することで、より多くの子どもたちの防災意識が高まるよう努めていきたいと考えています。



馬屋上小学校での講座の様子

公民館の実践紹介② **岡西公民館****大学生による主体的な講座の企画・運営
～「坪田譲治がつなぐ私たちのふるさと」から～****はじめに**

岡西公民館がある石井中学校区は、岡山駅西口から笹ヶ瀬川東岸まで、市街地と自然の豊かさを感じられる変化に富んだ地域です。岡山市名誉市民で児童文学作家の坪田譲治はこの地で生まれ、生家跡の石碑や譲治作品に登場する少年「善太と三平」の像が岡山駅西口にあるなど、譲治のふるさとを実感することができます。

「水辺のいきもの」を題材に文学と地域への理解を深める

昨年3月、坪田譲治の研究や顕彰活動を行っているノートルダム清心女子大学文学部山根知子教授から、「学生が行っている坪田譲治やその作品の魅力伝える取組を地域の活動へ広げるきっかけが作れないか」と公民館に相談がありました。学生は、坪田譲治PRのためのカルタや体操を自ら作るなど、毎年テーマを決めて取り組んでいるとのことでした。

地元石井小学校区では、以前から坪田譲治の顕彰活動が行われており、公民館でも関連講座を始めています。これを機に、学生と地域の方のお互いの思いをつなげることができると考え、学生が主体となり坪田譲治の作品から私たちのふるさとについて考える講座の企画をすることにしました。

今回は山根教授から「文学とESDやSDGsとの関連付けができないか」と提案があり、作品にも多く出てくる「水辺のいきもの」をテーマとし、幅広い世代を参加対象とすることに決定しました。

学生たちは、作品に出てくる水辺、魚や蛙などを知るために、保全活動を行っている団体の方からの聞き取りや岡西公民館・京山公民館の環境講座への参加など研究を重ねて小冊子にまとめ、企画にあたりました。譲治の作品に登場するふるさとの川つながりで京山公民館とも連携し、Zoomを使って今回の講座を共催しました。



能登川の調査をする大学生

若者が参画し地域住民とふれあう機会を

11月21日の講座当日は、岡西公民館に地域の大人の方を中心に60名が、京山公民館には小学生中心に15名の参加がありました。



発表を行う大学生

大学生は、作品に出てくる魚や蛙などの生きものと、それらに対する譲治の思い入れを紹介しました。また、参加した環境調査の報告、大学生が自ら考えたツボジョー体操や歌を紹介しました。その他にも、岡山大安寺中等教育学校メディア部の高校生による絶滅危惧種ダルマガエル保全活動の映像作品上映、京山地区住民からの環境保全活動の報告やクイズ大会などがあり、幅広い世代の人が楽しめる内容となりました。

大学生は「企画に苦労したが、充実感を得られた」と話し、高校生からは「地域の方に頑張りを認められてうれしかった」との声がありました。一方、参加者からは、大学生や高校生の頑張る姿やその成果に賞賛の声が寄せられたほか、次世代を担う若者たちが坪田譲治の顕彰を若者の視点で継承していることや、地域の水辺の保全に関心を持っていることへの期待の声がありました。

また、地元のことを学んで良いところを発見し、地域への愛着や理解を深めることにつながりました。

講座から広がる人・地域・団体とのつながり

今回、大学生が主体的に公民館講座を企画することで、地域づくりや保全活動を行う団体や、大学、高校、隣接学区の住民とつながることができました。また、新たな発想の顕彰活動が地域に広がるきっかけになりました。

今後も、若者がアイデアを出して企画し、地域住民とつながっていけるような講座をつくっていきたいと考えています。

「岡山芸術創造劇場」への期待高まる

大元公民館 「まちなか集会所 kikkake!」に行ってみよう

令和5年9月に、岡山市北区表町に「岡山芸術創造劇場 ハレノワ」がオープンします。大元公民館では、公益財団法人岡山文化芸術創造と共催して新しくできる劇場を身近に感じてもらうための講座を開催しました。2月5日には、公民館で草加叔也劇場長から劇場のコンセプトや完成予想図を示しながら劇場の規模や特徴の説明がありました。

3月12日は、健康づくりをかねて大元公民館から劇場の建設現場のある表町までウォーキングしました。建設現場を外から見学した後は、「まちなか集会所 kikkake! (きっかけ)」を訪れました。この「まちなか集会所 kikkake!」は表町商店街に昨年7月にオープンした施設です。劇場・舞台芸術の情報発信や交流を目的としており、劇場開館に向けた「わくわく」感の醸成と、まちの賑わい創出につなげるスペースです。劇場の模型や県外も含めた舞台関連情報のチラシなどが置かれています。

参加者からは「劇場への親しみと期待が増した」「集会所の存在を初めて知った。より多くの人に知ってほしい」との感想がありました。

「まちなか集会所 kikkake!」を一度訪れてみませんか。水・金・土曜日(10時～17時)を中心に開所していますが、イベント等がある際には閉まっていることもあります。所在地等の詳細は「岡山芸術創造劇場」のホームページか、電話でご確認ください。「岡山芸術創造劇場」電話(086)225-0154



「岡山芸術創造劇場」の模型



草加劇場長による建設現場での説明

楽しみながらごみ拾い 「ピックアップウォーク富山」

富山学区では「とみやまSDGs作戦」と称してSDGsの達成をまちづくりの中核として掲げ、ごみ削減や資源化物のリサイクル等に学区を挙げて取り組んでいます(第6回おかやま協働のまちづくり賞・奨励賞、おかやましんきんSDGsアワード2021・入賞)。

SDGs作戦として「プロキング」(ごみを拾いながらジョギングを楽しむスウェーデン発祥の活動)を取り入れることになり、地域の散歩愛好者(ジョギングよりウォーキングをされる人の方が多い)に公民館だよりで参加を呼びかけました。昨年の10月に「ピックアップウォーク富山」が結成され、会員には火ばさみとごみ袋が配布されました。

やればやるほど、心身ともに元気になり、街もきれいになる活動としておすすめです。

富山公民館ではこの活動を応援しており、「ピックアップウォーク富山」へ参加希望の方は富山公民館へご連絡ください。

電話(086)274-0827



eスポーツで認知症予防 脳への刺激と交流 東山公民館

3月22日、一般社団法人岡山県eスポーツ連合の職員を講師に、「eスポーツで楽しく認知症予防」を開催しました。

eスポーツはコンピューターゲームをしながら人と交流し、楽しむものです。ゲームによる脳への刺激と、人と楽しみながら交流をもつことから得られる刺激をとおして、認知症予防効果があるとの研究があります。

参加者は2グループに分かれて、「太鼓の達人」「ぷよぷよ」というゲームを体験しました。参加者からは「初めてだったが面白くて楽しかった」「eスポーツという言葉自体、初めて知った。これからもやってみたい」という感想がありました。

東山公民館では、この他にも認知症を予防し健康寿命を延ばすための「東山いきいき教室」などを開催しています。この他、健康づくりや介護予防のための講座を市内の全公民館で行っていますので、お問い合わせください。

